

共同企画

## 共同企画3

日本医療・病院管理学会：医療 CIO（Chief Information Officer）育成の必要性を再び考える。

2019年11月22日(金) 14:50 ～ 16:50 A会場 (国際会議場 2階コンベンションホールA)

### [2-A-4-07] 医療 CIOの立ち位置とキャリアパス

○中川 肇<sup>1</sup>（1. 富山大学附属病院医療情報部）

キーワード：Medical CIO, Career-Path, Medical Informatics Specialist Doctor

【はじめに】今まで日本医療情報学会では欧米諸国型の医療 CIOの導入を見据えて、沖縄の本大会まで議論を重ねてきた。この結果、医療情報第6版医学医療編では医療 CIO教育の GIO、SBOs を公表するまでに至った。同時に、医療情報技師育成部会では上級技師の増加をめざした活動をしており、さらに、医療情報学会は、社会医学専門医協会の一員として専門医の養成の一端を担うこととなった。このようにステップアップの機会は用意されている。

【立ち位置の再確認】教科書では10項目の立ち位置が示されている。まとめると執行部の一員であり、人事権・調査権があり、病院に対して提言ができ、各部門の長にまで意見を述べ全体最適化を図る権限を有するとされている。また、施設長が交代しても変わらずに執行部に有り続ける必要があるとされている。ところが、現況では意見の具申はできても人事権・調査権を認められている CIOの存在は本邦では皆無であろう。また、公的病院等で CIOをどのように処遇するか等の検討がなされた事例も皆無であろう。このため、認知度の向上、ポジションの確立についての更なる努力が必要である。

【キャリアパスとその活用】医療情報学会は、会員が多様なキャリアパスを有することで、医師が殆どの他の臨床系学会とは性格を異にしている。これが本学会の強みであり、活かすことが CIOの認知度に繋がると考えられる。医師法で院長（開設者）は医師であることが規定されている以上、経営陣と対峙して医療情報システム（HIS）のコストパフォーマンスを納得されるためには、養成予定の医療情報専門医が適すると考えられる。また、HISのセキュリティ、データ活用等にはその方面の知識を持った上級医療情報技師が適すると考えられる。すなわち、現場感覚をもちつつ、かつ、医療情報学の研究を行い、技術開発が行える人材の育成が望まれる。同時に認知度向上が望まれる。

## 医療 CIO の立ち位置とキャリアパス

中川 肇<sup>\*1</sup>、

<sup>\*1</sup> 富山大学附属病院医療情報部、

## The Position and the Career-Path for the Medical CIO

Hajime Nakagawa<sup>\*1</sup>,

<sup>\*1</sup> Division of Medical Informatics, Toyama University Hospital,

Through the kindness of the Japan Society for Healthcare Administration, this session was held as a joint symposium to discuss the need for a Medical CIO (chief information officer). As discussed in my presentation, a medical doctor is the most suitable choice for Medical CIO because CIOs must control medical information even when hospital management and policies differ. As the development of medical information systems has progressed, the scope of the CIO's tasks can be summarized in three points: one is assistance in the introduction of AI tools, second is to control regional systems of cooperative medical care to prevent the leakage of patient information, and third is as a data controller to manage the standardization of medical data. If data standardization is not attained, clinical research involving multicenter collaboration will not be successful.

To establish the position of Medical CIO, it is essential to raise awareness of the need for this position through promotional activities of the Japan Society of Healthcare Administration, Japan Association of Healthcare Information System Industry, and the Japan Association of Medical Informatics.

**Keywords:** Medical CIO, Career-Path, Medical Informatics Specialist Doctor,

### 1. はじめに

今まで日本医療情報学会(以下、学会)では欧米諸国型の医療 CIO の導入を見据えて、第 36 回の本大会まで議論を重ねてきた。この結果、関連する他学会と議論を進める重要性が指摘された。さらに、医療情報第6版医学医療編(以下、第6版教科書)では CIO 教育の GIO、SBOs の案を公表するまでに至った<sup>1)</sup>

一方で、医療情報技師育成部会(以下、部会)では上級医療情報技師(以下、上級技師)の増加をめざした活動をしており、試験制度の変更も行ったところである。さらに、学会は、社会医学専門医協会の一員として社会医学系専門医(専門医)の養成の一旦を担うこととなった(図1)。このように医療 CIO (以下、CIO) 制度確立のためキャリアは整備されつつあるといえる。

### 2. 立ち位置の再確認

第6版教科書では GIO(案)として 10 項目が示されている。要約すると①執行部の一員であり、②人事権・調査権があり、③病院に対して提言ができ、④各部門の長にまで意見を述べ全体最適化を図る権限を有するとされている。さらに⑤ 施設長が交代しても変わらずに執行部に留まり続ける必要性があるとされている。ところが、現況では、意見の具申は執行部会等でできても、人事権・調査権を認められている CIO や執行部が変更されても留まれる CIO の存在は本邦では皆無に近いと考えられる。また、大学病院や公的病院等で CIO のポジションを新たに設立して、それをどのように処遇するか等の検討がなされた事例も稀少であろう。事務職として処遇される可能性が高いとみられるが後述するように決して望ましくない。このため、CIO の認知度の向上、ポジションの確立についての更なる努力が必要である。

### 3. CIO の理想的な院内でのポジション

日本医療情報学会の特徴であり、かつ、利点でもある点は、

前述のように学会員が多様なキャリアパスを有することである。医師のみならず、他の medical staff やベンダ側の会員もあり、医師が殆どの他の臨床系学会とは性格を異にしている。これが本学会の強みであり、これを CIO 養成に活用することが CIO のキャリアパスに繋がると考えられる。しかしながら、一方で、医師法では院長(開設者)は医師であることが規定されている以上、経営陣と対峙して、あるときには、経営方針と意見を異にして、医療情報システム(HIS)導入のコストパフォーマンスを納得されるためには、現在、養成を予定している社会医学系専門医の二階層目に相当する医療情報専門医が適すると考えられる。CIO を病院が採用するにあたっては、国家資格有資格者であれば、採用は比較的容易である。近年、感染対策や GRM 専任のドクター、ナースが増加したことは、定員を増加させることが比較的、容易にできるためであろう。

しかるに、CIO を事務職で採用した場合には、他の事務職との兼ね合いや通常はほぼ3年ごとの移動があること等の問題があり、困難であると考えられる。また、学会参加等支障がある場合も多い。このように当面は、CIO は現場を熟知した医療情報学を専門とする医師が最も適任であろうと推論される(図2)。

一方、上級技師である医師以外の CIO はどうだろうか？上級技師の GIO1<sup>2)</sup>には「施設管理者層からの要求を引き出して、本質的な内容を理解し、現場の要求を考慮しつつ解決策を立案できる能力を修得する」と記載されている。すなわち、管理者層の要求を満たすための行動目標であり、教科書に定義された医療 CIO の GIO とは主旨を異に思うられる。しかしながら、GIO5 では「情報処理技術を理解し、活用できる能力を修得する。」とあり上級技師の有利な点である。従って、上級技師の医療 CIO の就任を否定する見解ではないことは強調したい。逆に情報処理技術分野は専門医が今後、重点的に研鑽すべき分野と考えられる。さらに、医療 CIO は病院の管理・経営を理解することが必要である。このために

は、今回、他の演者が述べられているように、病院・医療の質管理学会やMEDIS等とジョイントして病院管理学の資質を高めることが重要であると推察される。

#### 4. AI時代のCIOの今後のミッションの展開

文字通り CIO は医療情報のコントロールがミッションであり、院内の病院情報システムに関する管理運営の最高責任者であることは当然のことである。さらに、近年の医療情報学の主なスコープである① 医療への AI 導入 ② 地域医療連携 ③ 標準化に深く関与すべきであると考えられる。医療への AI 導入に関しては、ビッグデータの取り扱いとその解析に参加すべきと考えられる。すなわち、データマネージャーおよびデータコントローラーの兼任も視野に入れるべきであろう。今学会の大会企画でも医療への AI の応用は取り上げられており、今後、ますます多施設共同研究等のために、電子カルテデータをインターネット経由での送受信が可能にできるようにとの要望が臨床家からあるとみられる。その場合、ネットワークセキュリティ、個人情報管理に関して提言ができ、それを実現できるための、ヒト、モノ、カネを獲得できる権限を有することも CIO の望ましい姿であろう。すなわち、自院の医療情報がどのような研究にどのような使われ方をしているのか、全て、把握している必要性があることを意味する。

地域医療連携についても、今や全国各地でシステムが稼働している。セキュリティの脆弱性はないか、個人情報の管理に問題はないか、常に目配りすることも医療 CIO のミッションの一つと考えられる。

また、病院内の標準化に関与すべきである。ミッションとしては、各種マスタの標準化については勿論のこと、国際標準に関する情報も得る必要がある。さもなければ、自院が臨床研究 特に国内外の多施設共同研究の参加の機会が減少することが予想される。すなわち、全マスタを管理下に置くべきと考えられる。

#### 5. まとめ

CIO は現状、医師 GRM と同様に、病院長をはじめとする経営層に対して、自院の医療情報を守るための主張、行動をして、時には緊張感を持って対峙する必要があると考えられる。そのためには現時点では望ましいと結論される。しかるに、COI を志す上級技師は、地域連携医療を含めた臨床および臨床研究のフローを体得する必要がある。一方で、これから CIO を志す医師は、まず、最低限、臨床研修を行った上で、社会医学系専門医を取得し、情報処理技術を活用する能力が求められると結論される。いずれからの CIO も、その必要性に関して、医療・病院管理学会、MEDIS や医療情報学会の活動を通して社会的認知を向上させることが必要不可欠であろう。

#### 参考文献

- 1) 宮本正喜. 病院の情報管理者(医療 CIO). 医療情報「医療情報編」. 篠原出版新社, 2019:80-2.
- 2) 上級医療情報技師到達目標.  
[[http://jami.jp/jadite/new/doc/pdf/20171120\\_SeniorGIO%E3%83%BB%20SBOs\\_ver1.1.pdf](http://jami.jp/jadite/new/doc/pdf/20171120_SeniorGIO%E3%83%BB%20SBOs_ver1.1.pdf) (cited 2019-Sep-9)]